久米高畑遺跡（くめたかばたけいせき）７３次調査現地説明会資料

日時：平成22年２月27日（土）10時00分～

所 在 地：松山市来住町910番の一部
調査期間：平成21年11月２日～平成22年２月末日
調査面積：約270㎡
調査主体：松山市教育委員会、（財）松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
調査担当：水本完児・栗田茂敏

１．はじめに

久米高畑遺跡73次調査は、史跡及び重要遺跡の性格解明を目的とした重要遺跡確認調査（国庫補助事業）です。松山市来住町910番地内では過去に２回の調査が行われ、平成19年度に久米高畑遺跡69次調査、平成20年度には同71次調査が実施され、今回の73次調査が最終の調査になります。調査は「回廊状遺構」の西方域に古代の役所に関連する施設が存在していたかどうかを確認するため行いました。なお、調査地は松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地「№127来住廃寺跡」内に所在しており、『史跡久米官衙遺跡群久米官衙遺跡　来住廃寺跡』に隣接しています。

２．遺跡の立地とこれまでにわかったこと

調査地は北側を堀越川、南側は小野川で挟まれた範囲に広がる微高地状の地形（来住台地）の南西端に位置しています。今回確認した遺構の検出面（地山）を観察すると、南西方向に向かって地形が緩やかに下がっていくことが分かります。

久米高畑遺跡73次調査地の周辺では、特に史跡久米官衙遺跡群として多くの発掘調査が実施されており、７世紀から８世紀にかけての様々な官衙施設を配置した区画地が規則的に配置された状態で確認されています。

３．調査の概要

（１）土層

今回の調査では、９種類の土層を確認しました。Ⅰ層からⅦ層までは近現代の水田耕作に伴う耕土、Ⅷ層は古代以降の遺物を含む包含層、Ⅸ層は基盤層（地山）です。なお、Ⅸ層上面は遺構の最終検出面で、様々な遺構が見つかっています。

（２）みつかった主な遺構と遺物

調査では、弥生時代前期末や弥生時代後期の土坑と柱穴、古墳時代の竪穴住居や土坑、古代の溝、中・近世の溝などが見つかりました。遺物は、弥生土器、土師器、須恵器、瓦、石器（石鏃・加工斧・砥石）、陶磁器、鉄製品、鉄滓などが出土しました。

弥生時代前期末：ＳＫ１・３
弥生時代後期：ＳＫ６・７・８
古 墳 時 代：ＳＢ１、ＳＫ５・11
古　　代：ＳＤ４・５・６
中　近　世：ＳＤ１・２・３・７

４．調査の成果

久米高畑遺跡73次調査では、弥生時代前期末から中・近世にかけての遺構や遺物を確認しました。今回の調査では、特に「回廊状遺構」の西方に古代の役所に関連する施設が存在していたかどうかを確認するための調査を行いましたが、官衙に関連する施設を確認することはできませんでした。調査地の北側に隣接する久米高畑遺跡69次調査では、官衙に関連する掘立柱建物１棟を確認したことにより、周辺が官衙関連施設の展開する南西端にあたることが推定されています。今回の調査でもその考え方に変わりはありません。しかし、調査では西に進むにしたがって各時代の遺構の遺存状態が良好なことから、さらなる遺跡の広がりが確認されました。また、来住廃寺跡創建時の瓦（平瓦と丸瓦）が溝ＳＤ４から出土していますが、溝の埋没時期がはっきりしないため、時期が古代のどの時代になるのか現時点では判らない状態です。

官衙以外の主な成果としては、弥生時代前期末の土坑２基（ＳＫ１・３）は、土器の出土状況からこの両者は貯蔵穴の可能性があります。

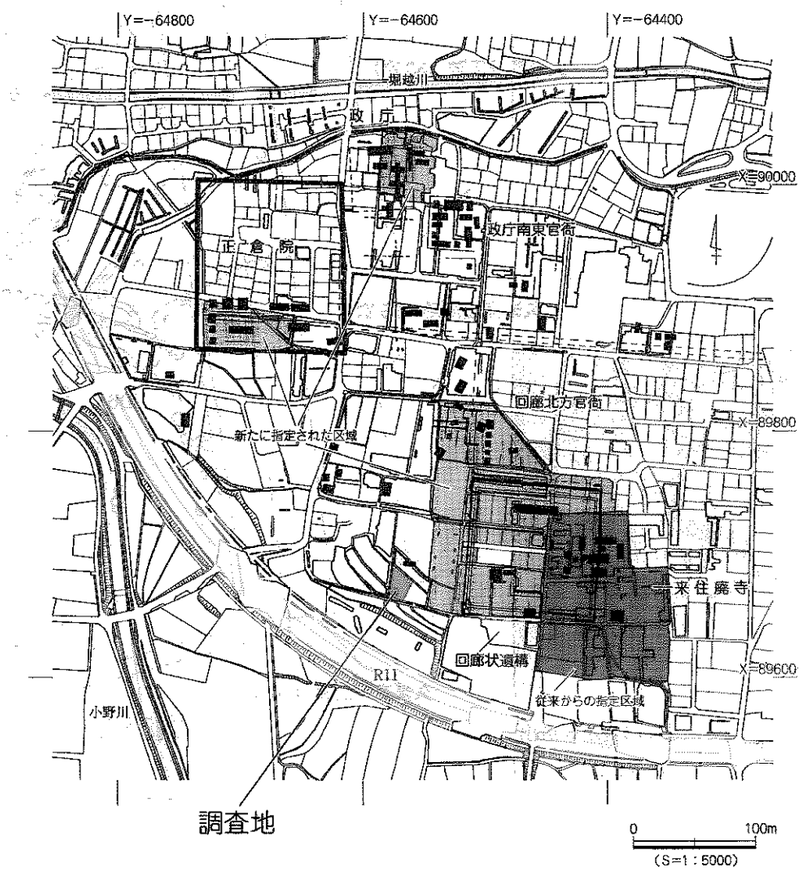

図１　久米官衙遺跡群の主要施設と調査地の位置